

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

プロジェクトの名称：

美幌博物館への地下水熱利用設備および
LED 導入事業

プロジェクト 実施者名	美幌町
----------------	-----

妥当性確認申請日 2015年 8月 25日

プロジェクト登録申請日 2015年 11月 18日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がいる場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) ヒホチョウ
	美幌町
住所	網走郡美幌町字東2条北2丁目25番地

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者

実施者名	(フリガナ)
住所	

1.3 J-クレジット保有者

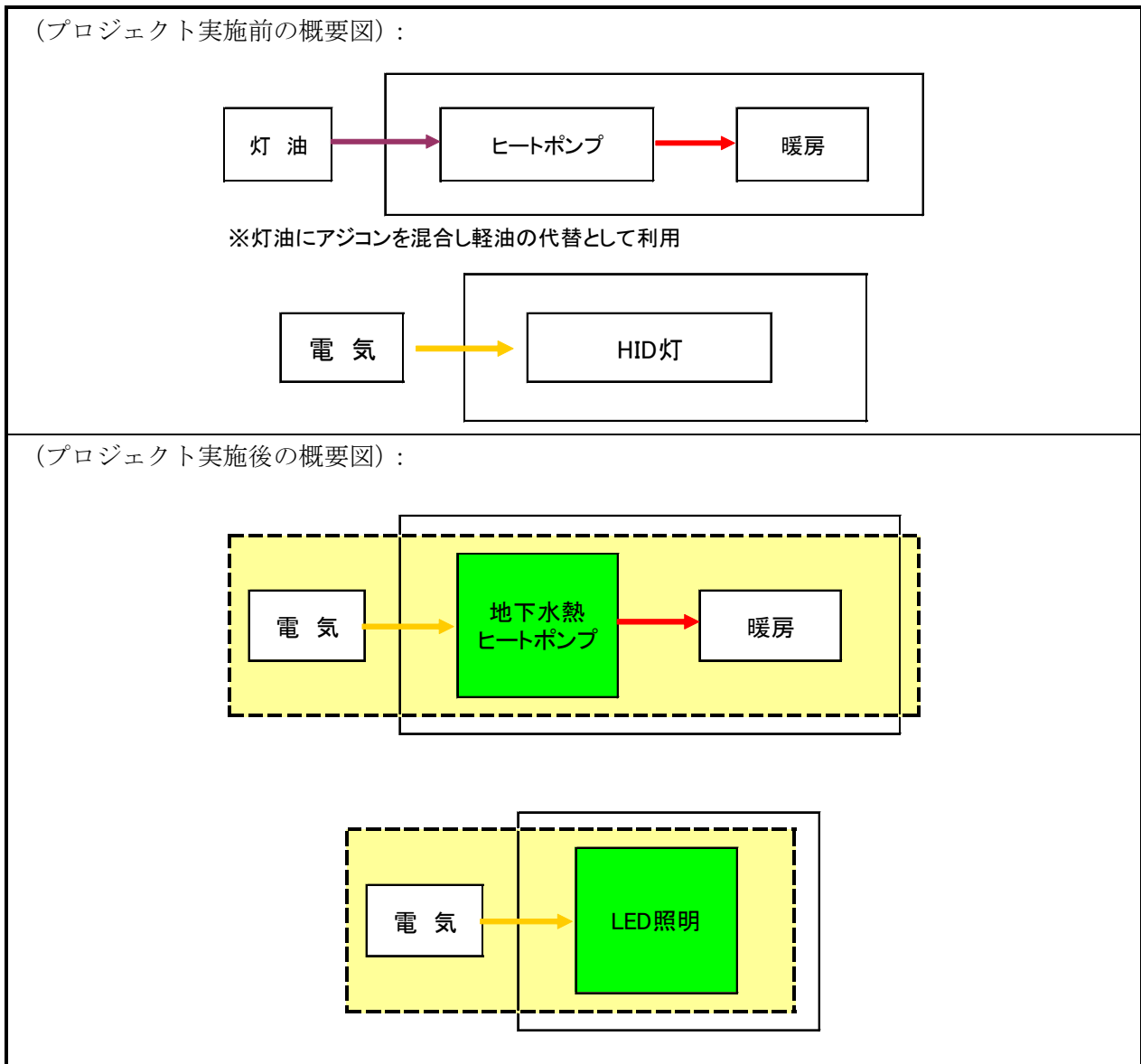
保有者名	(フリガナ) コウエキサ イタンホウジン ホッカイドウカンキョウサ イタン
	公益財団法人 北海道環境財団
住所	札幌市中央区北4条西4丁目1 伊藤・加藤ビル4F

2 プロジェクト概要

2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	美幌博物館への地下水熱利用設備およびLED導入事業	
目的	従来軽油エンジンヒートポンプで行っていた施設の暖房を、地下水を熱源としたヒートポンプに代替する事で、省エネルギー・省CO2化を図るものである。また、従来の照明からLED照明に更新する事で、省エネルギー化を図る	
概要（削減方法）	施設の熱源機器として利用していた軽油エンジンヒートポンプから、地下水を熱源としたヒートポンプを導入する事で、温室効果ガス排出削減を図る。また、既設のHID灯からLEDへ更新する事で温室効果ガス排出削減を図る。	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	美幌博物館
	住所	北海道網走郡美幌町みどり 253-4

2.2 プロジェクト実施前後の状況



2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日	<p>■2013年4月以降に実施されたプロジェクトである</p> <p>□2012年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認及びオフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録のいずれも受けていない</p> <p>□2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録を受けている ※3</p>
追加性	■追加性を有している

方法論

2.4 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-004 Ver.1.1</u>
	方法論名称	空調設備の導入
更新／新設	<input checked="" type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-006 Ver.1.1</u>
	方法論名称	照明設備の導入
更新／新設	<input checked="" type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

2.5 方法論の適用条件への適合

・方法論 EN-S-004

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 本事業にて導入したヒートポンプの効率（COP）は467%であり、事業実施前のヒートポンプ COP176.3%を上回る。
条件 2	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 ヒートポンプで生産した温熱は全量当該施設で消費する。

・方法論 EN-S-006

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 本事業では、ベースラインの照明設備よりも省電力のLED照明設備を導入する。
------	--	---

2.6 モニタリング・算定方法

・方法論 EN-S-004

ベースライン排出量				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	ヒートポンプの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
付随的				□排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する

プロジェクト実施後排出量				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	ヒートポンプの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
付随的	冷媒（R410A） の漏洩	R410A	55%	■排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する

・方法論 EN-S-006

ベースライン排出量				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	照明設備の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
付随的				□排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する

プロジェクト実施後排出量				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	照明設備の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
付随的				□排出量の算定を行う □影響度により排出量を評価する

3 排出削減計画

(全体合計)

認証予定期間	2015年11月18日 ～ 2021年3月31日 (5年4ヶ月)					
排出削減計画	年度	ベースライン排出量		プロジェクト実施後排出量		排出削減量
	2013年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2014年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2015年度	10.0	t-CO2	8.8	t-CO2	0 t-CO2
	2016年度	27.4	t-CO2	23.9	t-CO2	3 t-CO2
	2017年度	27.4	t-CO2	23.9	t-CO2	3 t-CO2
	2018年度	27.4	t-CO2	23.9	t-CO2	3 t-CO2
	2019年度	27.4	t-CO2	23.9	t-CO2	3 t-CO2
	2020年度	27.4	t-CO2	23.9	t-CO2	3 t-CO2
	合計	147.0	t-CO2	128.3	t-CO2	15 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力のCO2排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)					

(方法論 EN-S-004 空調設備の導入)

認証予定期間	2015年11月18日 ～ 2021年3月31日 (5年4ヶ月)					
排出削減計画	年度	ベースライン排出量		プロジェクト実施後排出量		排出削減量
	2013年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2014年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2015年度	9.3	t-CO2	8.5	t-CO2	0 t-CO2
	2016年度	25.4	t-CO2	23.2	t-CO2	2 t-CO2
	2017年度	25.4	t-CO2	23.2	t-CO2	2 t-CO2
	2018年度	25.4	t-CO2	23.2	t-CO2	2 t-CO2
	2019年度	25.4	t-CO2	23.2	t-CO2	2 t-CO2
	2020年度	25.4	t-CO2	23.2	t-CO2	2 t-CO2
	合計	136.3	t-CO2	124.5	t-CO2	10 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力のCO2排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)					

(方法論 EN-S-006 照明設備の導入)

認証予定期間	2015年11月18日 ～ 2021年3月31日 (5年4ヶ月)			
排出削減計画	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2014年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2015年度	0.7 t-CO2	0.3 t-CO2	0 t-CO2
	2016年度	2.0 t-CO2	0.7 t-CO2	1 t-CO2
	2017年度	2.0 t-CO2	0.7 t-CO2	1 t-CO2
	2018年度	2.0 t-CO2	0.7 t-CO2	1 t-CO2
	2019年度	2.0 t-CO2	0.7 t-CO2	1 t-CO2
	2020年度	2.0 t-CO2	0.7 t-CO2	1 t-CO2
	合計	10.7 t-CO2	3.8 t-CO2	5 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力のCO2排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

4 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

4.1 モニタリング体制

データ管理責任者	美幌町 経済部商工観光グループ GL
モニタリング担当者	美幌町 経済部商工観光グループ 担当

4.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続	<ul style="list-style-type: none"> ・積算電力量計の数値を月1回確認し、写真で記録する。写真は電子ファイルで保管する。 ・電力の排出係数はJ-クレジットデフォルト値を確認する。 ・プロジェクト実施前後の設備の仕様書を保管する。
データ保存期間	認証対象期間終了後 2 年間

5 特記事項

5.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	・外気温の変動 例年より気温が低い場合は、機器稼働時間が長くなり排出量が増加する。

5.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： _____)

類似制度での認証予定期間： _____)

登録していない

5.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。